

き ら め き ✨



第44号

『さがしものはなんですか〜?』

各事業所ホームページには、法人ホームページからアクセスしてください。

<http://hakukou-kai.or.jp/>

各事業所のホームページにメールボックスがあります。ご意見、ご感想をお寄せください。

平成30年3月31日 社会福祉法人 薄光会 広報委員会発行

本部、太陽のしずく ケアホームCOCO	〒299-1607	千葉県富津市湊1070-3	☎	0439-67-3711
豊岡光生園 相談支援センター天羽	〒299-1742	千葉県富津市豊岡3535-1	☎	0439-68-1711
三芳光陽園	〒294-0825	千葉県南房総市上堀280	☎	0470-36-3211
鴨川ひかり学園 ひなたホームズ	〒299-2854	千葉県鴨川市代1297	☎	04-7099-3311
湊ひかり学園	〒299-1607	千葉県富津市湊934-18	☎	0439-70-6551

風と語ろう



『障碍者と疾病診断・治療への躍り口』

(一)

私事である。今、私は急激に身体機能を失っている。昨年十一月下旬にホームセンターで転んだのが、この激変のきっかけだったろうか。脳性麻痺の二次障害の行きつく先の予想はあったが、まさかこのような状況になるとは予想していなかった。あれよあれよと二週間足らずで歩行困難となり、「黄金の左手」もめつきり力が入らなくなった。今、車椅子に乗り、マウスひとつをクリックしながら、スクリーンキーボードをぽつりぽつりと打っている。

振り返ると、二十数年前に箸が使えなくなっただけから、ゆるやかな経年変化を自覚してきた。最近歩行にふらつきが大きくなったし、食事動作にもずいぶん難儀していたけれど、車椅子はまだ先だと思っていた。

ところが、日単位で状況は悪化した。昨日、布団から起き上がったのに、今日は七転八倒しながら身体の向きを変え、さながら宇宙遊泳である。なんとか横にローリングして四つ這いになったり、座位を取ることにも成功してお尻をすり曳いてトイレに行こうとしても、今度は電気が走った。宇宙に長期滞在して帰還した飛行士のように地球の重力がこれほど大きいことに驚いた。いったい私の中で何が起きているのか。頸椎か、筋肉か、はたまた脳か。

(二)

こんな激変が我が身に起こっているのに、医療機関を受診するまでに何日も日かすを費やしたのには訳が

あった。私が医療一般に対して抱いてきた不信感とこれまでの経験から、私自身の身体の診断と治療にたどり着くまでの道行きが、ヒマラヤ登山のようにも思え、頓珍漢な悲喜劇がずいぶん繰り広げられそうで、これはかなわん、そう思ったのだった。

私は、多くの医師とコミュニケーションが取れないという経験をいよというほどしてきた。医師とはついけんか腰になる。主訴も聞かれず心療内科に廻されたりした。得心のいく診察結果を得られたことも少なかった。私のひがみ根性だろうが、軽くあしらわれて、医師はひとり得心し、私にはもやもやが晴れないまま門前に佇んでいる。毎度の実感だった。私は、茶室の躍り口から招き入れられてじっくり向き合い、やり取りに深い味わいのある、そんな医療と主治医が欲しかった。

(三)

「MRI検査が終わったら、その検査受付で待っていて。私が電話して画像を読み込んでもらうから」花の谷クリニックの伊藤先生の指示だった。ほとんどなく、検査をした総合病院の専門医師のコメントを伊藤先生が直接伝えてくれた。私が欲していた茶室の躍り口から招き入れてくれる医師が電話の向こうにいた。花の谷クリニックに飛び込んで間違いはなかったと思った。

医療機関に行かなければこの状況、この魔の手のような進行速度は「やばい」。だが、速やかにかつ核心を次々と突いていくべきであり、「もともとの障害でしよう?」なんて寄り道をさせられ

たら、それこそ「やばい」。

私は一計を案じたのだった。頸椎症の悪化ならば、うちの利用者にもいる。相当な生活動作の制限を抱え込む。制度利用も視野に入れ、第三者を仲立ちに医療に切り込もうと。そして近隣の専門医療機関ではなく、かねてから信頼厚い伊藤先生のとこに相談に飛び込んだのだった。

(四)

私が自分自身の診断と治療方針が出る過程で、こんなに得心し、手応えを感じてわくわくしているのは初めての経験である。今後の身体状況と生活の、ある意味で厳しさが予測できる中で、自分自身が医師にしっかりと指南されながら目の前の道筋を見据えていくことの大切さと大きさをつくづく学ばせてもらったのだ。伊藤先生はさらりと吸引式尿器など必要なものを手配してくれ、整形外科の医師も吟味して選んでくれて、とことん道筋をコントロールしてくれている。「ニーズを捉える」ということの、客観的な質と深みと、当事者に向き合う距離とほんとうによく聴いてくれる——聴こうとするポリシーも学んだのである。

今、私は湯気が出るほどの現在進行形の旬な学びの中にいる。以下もそのひとつ。不随意運動の中で生きてきたが、内部感覚としては私の自在な四肢である。初めてその幻覚を知った。

午前三時 吸引尿器の音の中

自在な四肢の 幻覚を知る 鳥居

ひかり通信

『音楽の力』



私が鴨川ひかり学園に入職して約一年が経ちました。

最初の頃は、利用者さんの顔と名前を覚えることや皆さんに自分を知ってもらうだけでも精一杯の日々でした。また、何か伝えようとしてくれていた方がいても、それを上手に汲み取れず、悩むことも多かったと思います。でも、利用者さんとコミュニケーションをとっていく中で、自然と名前を呼んでもらえるようになったり、伝えようとしてくれていることが何か、わかるようになったりしたりするなど、少しずつ私にもできることが増えてきました。

そんな日々の中で、特に心に残っていることがあります。それは、火曜日から木曜日のグループで一緒の滝口雄太さんとのエピソードです。



滝口さんは、よく他の利用者さんたちと挨拶をするときに「ハイタッチ」をしています。

しかし、私が手を差し出して試してみても、なかなか手を合わせてはもらえません。



「私もハイタッチがしたい!」

「彼との距離を少しでも縮めたい!」

そんな時に思いついたのが、グループ活動の「音楽」でした。

最近では、「ユーチューブ」を活用して音楽活動に取り組んでいます。滝口さんはこの時間が大好きで、様々なリズムに乗りながら体を前後させます。そして、

「やあー!」

と声を出しながら、楽しそうにタンバリンを叩くこともあります。



ある日、滝口さんが特に音楽に乗っている様子だったので、

「私もこの曲好きだよ、いい曲だよね!」

と話しかけ、「楽しいね」という気持ちを込めて、彼に手を差し出してみました。すると、

「やあー! やあー!」



と元気な声と共に、私の手と滝口さんの手が重なり、ついにハイタッチをすることができました。この時は彼と、今までで一番心が通じた瞬間です。

今では毎朝、滝口さんと「おはよう」の挨拶と同時にハイタッチを必ずやっています。彼の手のぬくもりは、心まで温かくしてくるのよに感じます。

まだまだ覚えることや初めて経験することばかりで、戸惑うことも多いですが、もっともっとたくさん利用者の魅力や素敵なところを見つけていきたいです。そして、ひとりひとりの距離を縮め、楽しい関係を築きながら、私自身、「笑顔」を忘れずに、仕事に取り組んでいきたいと思っています。

(川上真末)



『にやり・ほっとセレクション4』

幸平さんが、移動中の車内にて、飯塚さんに何やら語りかけている。

「人生にはいろいろなことが起きる。飯塚さんもそうでしょ、僕もそうだ。」

「僕は道が好きなんだ。海にも行けるでしょ、山にも行けるでしょ、館山に行ったりサイクルショップのCDも買える。みんな、道なんだよ。」

深読みすれば、かなりの名言である。このセリフに、朝から少し元気のなかった飯塚さんも、いつの間にか笑顔になっていた。

(にやり・ほっと報告書より)

『今年も参加! 鴨川市福祉フェスティバル』

五回目を迎える「かもがわ福祉でまちづくりフェスティバル」が、今年も鴨川市文化体育館で開催されました。鴨川ひかり学園は、日頃の活動内容の一つである「コーヒー豆かす回収」の紹介をメインテーマにブースを出展しました。



湊ひかり学園

学園新聞

一所懸命

冬

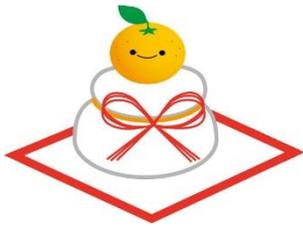
二〇一八年、輝かしい成年の始まりに際して、湊ひかり学園を愛するともに、日々玄関を「一所懸命」に守り続けてくれる勝さんをご紹介したいと思います。

勝さんは平成十六年の開所以来生活介護事業所をご利用頂き、いわば湊ひかり学園の歴史とともに歩まれてこられた大ベテランです。(まだお歳は若いですが…)

以前の勝さんは、ちょっとおこりんぼうの所があり、やんちゃをしたりして賑やかな日々を送られた時代もありましたが、年月を重ね、お腹の丸みともにすっかり穏やかな勝さんに変心を遂げられました。以前は大好きなブロックなどの遊具を独り占めして楽しんでいましたが、最近では新しく入られた利用者さんに好きな遊具を譲られて見守りされている姿を見かける事が多く、微笑ましく感じる日々です。



さて、勝さんの最近の関心(お仕事)は、登園されると玄関近くに佇み、他の利用者さんがすべて登園されるまで見守り続けている事です。その間、イスを準備したり上靴を揃えて出してあげたりと忙しく過ごされております。そして、皆さんが登園されると最後に蛍光灯を消灯してから、皆さんのいる指導室に移動されます。

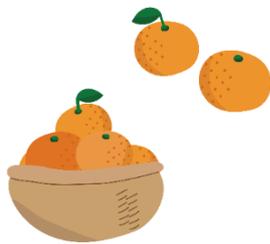


そんな勝さんの姿を見ると「一所懸命」という言葉の意味をしみじみと感じる事が出来ます。

その昔源頼朝公が房総半島を起点として源氏再興を目指した際にいち早く駆け参じた千葉氏の領主常胤公が、その功績により大願成就した褒美を尋ねられた時に「自ら開発して領地とした土地を守り抜く事こそ本望」と答えられ、他には何も望まなかったことが、頼朝公をして我が父と敬われ、その後の繁栄と、『一所懸命』の由来となるとともに、現在の千葉県発展に繋がったとの事です。

人は何故生きるのでしょうか？
人の幸せはなんでしようか？

幾度となく門松をくぐり、齢を重ねた今でもその答えを見つけれず戸惑うばかりですが、勝さんを見ていると、かつて何かで目に触れて記憶の片すみに残っている、「自分以外の人への無条件の奉仕」「自然と涙が出てくることのために命を使う」という言葉が甦って来ます。



毎日微笑みを携えて佇む勝さんの姿を見るにつけ、継続する尊さを感じる次第です。

歴史に残る偉人のようには出来ませんが、利用者さんの大好きな湊ひかり学園を、守り人の勝さんとして末永く大切にしていきたいと新年の幕開けに際して願ってやみません。
(佐久間)



ココ de COCO



『旅先にて』

十一月に葉子さんが選んだスパリゾートハワイアンズに行った時のことです。ホテルでお土産を見ていると、スーツと手を伸ばしチョコシートを握りしめ嬉しそうに笑っている葉子さんを、近くにいたご婦人が、

「チョコシートって美味しいよね！ 好きなだね」と話しかけてきてくれました。

葉子さんは嬉しそうに笑顔でご婦人を見ています。すると、

「どこから来たの？」

「千葉です」

「私は東京から来たんだけど、仲間とはぐれちゃったのよ」

などとしばらく話しをしている。

「ところで、大浴場に行った？ せっかく来たんだから入らないともったいないわよ」

まだ入浴前だったので、

「葉子さん行こうか？」と話しかけると、ご婦人も、

「入って来ると良いよ」と葉子さんの肩をポンポンとしてくれました。

昔、理事長当時施設長から「私たちは傍の人を楽にするお仕事をしているんだよ」と聞いた

ことがあり、「あー！この事なんだと思い出しました。」

きつのご婦人は仲間を探してどうしようかとハラハラ・ドキドキしている時に、葉子さんの様子を見てホッと、声を掛けて来てくれたのかなと思えました。ご婦人とのふれあいに「にやり・ほっと」とした出来事より。

ゆり子



『いち！ いち！』



あけぼの荘で日頃使っている味噌は、近所の小泉酒店で買っています。

ある日、義久さんが味噌が入っているタッパーが空になっているのを見て、

「味噌がないのか？」と気にかけていました。そこで、空のタッパーを渡し、

「味噌を買いに行く？」と聞くと、

「えっでい！（任せとけ！）」と意気揚々と小泉酒店へ。

挨拶をして、タッパーを渡すと店員さんも「お味噌ですね」

と対応してくれ義久さんも満足そうにお店をあとにしました。

それから、

タッパーが空になると、すすんで買

い物準備をし、小泉酒店へでかけま

す。

タッパーを渡すと店員さんが、

「1kgですね」と声をかけてくれます。

すると指を1本たてて、

「いち！ いち！」とアピール。

それからというもの小泉酒店に行くたびに

「いち！ いち！」と指を立て、店員さんが、

「1kg入りましたよ！」というやり取りをしています。



シヨージ



協力・小泉酒店

太陽のしずく

『ありがとうへのありがとう』

和光保育園でおしごとをしている浜崎さんは、音楽が大好きな人です。パソコンでピアノやギターを演奏する人達の動画を見ては、自分も演奏をするシエスチャーをして嬉しそうに笑っていました。

そんなある日、和光保育園から、いつもおしごとを頑張っている太陽のしずくの利用者さん達に対して、お給料を頂けるといふ話がありました。早速浜崎さんは紙にギターの絵を描いて、和光保育園からのお給料でこれを買いたいのだと伝えてくれました。それを見て、中古のものでも、お給料を最低半年以上は貯めなければいけないことを伝えましたが、それでも買つのだという強い訴えがあり、それから浜崎さんの貯金生活が始まりました。

半年後、ようやく貯めたお金を持って、事前に見せていたお店で、目的のギターを買いに行ったのですが、なんとそのギターが売り切れており、その時はとても悔しそうに顔をっていました。次に買

えそうなギターはもう少し値が張り、目標が先に延びて



しまいました。

そんなこともあり、おおよそ一年かけて貯めたお金でギターを買った時の、浜崎さんの嬉しそうな笑顔はとびっきりのものでした。

自分のギターを手にすることも初めてでしょうし、自分で働いて、自分で手に入

れたお金で何かを買うということ自体が、おそらく初めてだったのではないかと思えます。

浜崎さんは、何度も何度もありがとうのシエスチャーをしながらお礼を言ってきました。しかし私は本当に何もしてなくて、浜崎さんが自分で頑張って貯めたお金で買ったものなのだとこのことを何度も伝えました。それでも浜崎さんはありがとうのシエスチャーを続けていました。

それからしばらくして、和光保育園の六十周年を記念するイベント『Wai Wai. com』が開催されることになりました。その日のためにみんなで作った『森の劇場』でのイベントに、薄光会のメンバーで活動している音楽倶楽部と浜崎さんが一緒に楽器の演奏で参加することになりました。いつもの太陽のしずくでの活動の合間に練習を重ね、浜崎さんはいつも練習が終わると、嬉しそうにハイタッチをして、ペコリとありがとうのシエスチャーをしてくれました。



そしていよいよ『Wai Wai. com』本番当日。浜崎さんは練習の成果を存分に発揮し、素晴らしい演奏を見せてくれました。それは、

このような機会を与えてくれた和光保育園への感謝の気持ちが表れているようにも見えました。その姿を見て、私はなんだか胸がいっぱいになってしまいました。自分の夢をどんどん現実に変えていく、浜崎さんの強い信念を間近ですっと見てきたからです。その過程の中に一緒にいることができた私はとても幸せ者です。浜崎さんはいつもお礼を言ってくれていたけれど、本当はお礼を言わなければならなかったのは私の方だったことに気付きました。

「浜崎さん、どうもありがとう」

演奏が終わった後に、今度は私の方から一年分の思いを込めて浜崎さんに伝えました。

山田 敬亮



光陽

『変革の日々』

三芳光陽園で働き始めはや一年が過ぎ、「私自身の変化」を日々感じています。

以前の自分を振り返ってみると、日々の業務を淡々とこなしていく中で、お年寄りとの関わりが足りないのではないか？ 自分から語りかけ、お年寄りとの関係を深めることができていないと感じていました。

お年寄りとの関わり方を見直すきっかけになったのは、健康面や状態面ではなく、お年寄りの些細な行動や言動を記録しようとの取り組みです。記録として残すために自然に関わりも増えたように感じます。

秋祭り以降も運動会、クリスマス会餅つき、大晦日のお年寄り職員による紅白歌合戦と目白押しイベントでは、お年寄りと職員が一体となって一緒に楽しんでいました。

皆一緒に「楽しかったよ、今度は何するの」との言葉が、自分の喜びとなつていきます。

新年を迎え、今年も皆さんと一緒に楽しい一時が過ぎますように……。



鈴木芳和

『月に一度営業をしています！』

「光陽園で一番女子力が高い方は、誰だと思いませんか？」と尋ねると

「時江さんだね」と多くの人は答えます。

初めて当園にいられた時、ほんのりピンク色のリップをされていたことが印象に残っています。髪染めとネイルは、欠かすことがなかったそうで、化粧品の入ったポーチをいつも持ち歩いています。暇さえあれば、手鏡を片手にリップを塗り、アイブローで眉を描いたり、念入りにお化粧をしています。

一つだけ気にかけていたのが、鏡を見る度に残念そうな表情を浮かべていた髪染めです。

「近く的美容室に行きましようか？」と誘ってみても、足が悪いので……。

そこで『美容室いしかわ』を開業しました。

髪染めの最中、時江さんは、

「ありがとっね」「ありがとっね」

と何度も声をかけてくれます。きれいに染められた髪を見て満足そうにニコニコしながら何度も鏡の中を覗き込んでいました。



時江さん、いつまでもお元気で、その女子力を保つために、微力ですが、サポートさせていただきます。

美容室 いしかわ

『みんなの人気者』

私の個人的な意見かもしれませんが、光陽園で一番、明るく朗らかで、そして優しい利用者の方は良子さんだと思っています。

とても社交的な性格の方で、良子さんの前を通りかかった人には、殆どと言っていいほど「大丈夫？」「気を付けて」「どこ行くの？」と気さくに声をかけてくれます。

食事の時、良子さんの隣の方が、職員の手を払いのけていると、良子さんが横からその方の手や肩を優しく撫でてくれます。するとその方も落ち着かれ、食事を食べ始めます。

職員にも人気があつて、声をかけると「うまいこと言うねえ」「すこいねえ」「やったなあ」とバリエーションに富んだ返事が返ってきます。

いつも、その場の雰囲気や和ませてくれて良子さん、ありがとっございます。

川名充子

全国老人福祉施設協会
第10回 フォトコンテスト
優秀賞入選



『シンクロナイズド睡眠ing』
今年もやりました！



園だより

『几帳面なまあさん』

几帳面なまあさんは、衣類のタグやほつれた糸がどうしても気になってしまいます。特に許せないのが衣類のタグで、自分自身の衣類に限らずタグが目に入ると、我々職員も気が付かないうちにスーツと彼の右手が伸び、そのタグを一瞬にしてはぎ取ってしまいます。しかも、自らの力で取りきれないときは職員の手を強く引いて

『お願い！何とかしてくれ！ 取ってくれ！』と真剣な眼差しで強く訴えてきます。

また、駐車場に停めてある職員や園の車の並び方も気になります。いつもと違う並び方になっていたり、違う車が停まっていると、まあさんに見てみればこれも大目に見ることはできないのです。

『なんで？ いつもと違う並び方なの？ いつもと違うよ！ この止め方は違うよ！』

きつとまあさんは、そう思いながら窓の外を眺め、悶々とした一夜を明かすことになるに違いありません。

加えて玩具のブロックで遊んでいる時も、形ごとにきれいに並べ替えて遊んでいます。一通り遊び終わりと、まあさんに「片つけてね」と職員がお願いをすると順にケースに入れてくれます。で

もなぜか最後は出した時と同じ配置になっているのです。

このようにとても几帳面なまあさんですが、今までは彼のこの強い個性を受け入れられず、彼に変わってもらいたい気持ちが強くて出たのです。しかし一方で、私は彼の心に触れられないもどかしさも感じていました。

そこで私自身が気持ちを变えてみて、まあさんとの関わりの中で、多少細かいところはあるにせよ、几帳面な性格をたくさん活かしてもらおうという考えに切り替えたところ、私もまあさんもお互い気持ちをゆるめてのやりとりができるようになってきました。

それに、まあさんと一緒に居て気づいたことは、隣の人の口元を拭いてあげたり、ドライブでも近くの人のシートベルトをセットしてくれることでした。私はこのやりとりが、こうあらねばならないという彼のこだわり行為ではなく、彼の生来の優しさの表れなのだと気づいたのです。同時に私自身こそ、彼の心に触れさせず彼のこだわりを変えようと、固い頭でこだわっていたことに気づかされたのです。この時こそ、まあさんと私の関係性が変わった瞬間だと感じました。ものの見方や発想も変わった気がします。

まあさんが望んでいる生活。これからの深く長い付き合いの中で少しずつ、そして一緒にあってその答えを見つけていきたいと思います。

のんびりと。

伊藤

(追伸)

それでも他人の服のタグだけは……。

みんなたくさん笑顔ありがとう

7グループに分かれ小旅行に行ってきました。一部を紹介します。



念願の鉄道博物館にて



ハイ！ タッチ

群馬サファリパーク



料理がおいしい！

隠れ屋敷 典膳



魚おいしい！ しながわ水族館



ポーズ！ 箱根 芦ノ湖

【編集後記】

厳しい寒さの冬が終わり、始まりの春が訪れました。「人生の本舞台は常に未来にある」

格言のようにとどんな出会いや出来事が訪れるか楽しみです。

武